

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長  
福田 紀彦 様

郵便番号 210-0864  
住 所 川崎市川崎区池上町2番1  
氏 名 エヌケーケーシームレス鋼管(株)  
代表取締役 ガルツェン・ロランド・コーネリス

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	エヌケーケーシームレス鋼管株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区池上町2番1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	22	鉄鋼業
主たる事業 の内容	継目無鋼管の製造・販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	20,645	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度 ～ 平成30年度 (報告年度 平成30年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内すべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 二のある欄は、該当する二内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

#### 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

##### (1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

###### ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 39,180 t-CO <sub>2</sub> (調) 39,180	(実) 39,360 t-CO <sub>2</sub> (調) 39,360	(実) 37,933 t-CO <sub>2</sub> (調) 37,933	(実) 42,724 t-CO <sub>2</sub> (調) 42,724	(実) 36,992 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) -0.5 % (調) -0.5 %	(実) 3.2 % (調) 3.2 %	(実) -9.05 % (調) -9.05 %	(実) 5.6 %

###### イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値					
削減率		%	%	%	%

###### ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	平成27年度（基準年度）および平成28年度は、生産量が急激に減少した（それ以前の約1/3）状況下、電気、蒸気については削減対策がすすみ、温室効果ガスの排出量はそれぞれ減少したが、炉の燃料ガスであるコークス炉ガスの使用が増加（約5%）し、生産量が微増（約2%）の影響もあり、全体としては、排出量は0.5%増加した。目標5.6%の達成に向けて、このコークス炉ガスの原単位の悪化対策を含めた改善を進める。
第2年度	平成29年度（第2年度）の生産量は基準年度（H27年度）に比較して約26%増加したものの、全社（継目無管工場および本社事務所）のCO2排出量は基準年に比べて3.2%削減した。操業増影響（約11%）を差引くと、CO2排出源であるコークス炉ガス使用の削減（約5%）、電力量削減（約7%）および蒸気削減（約2%）のトータル14%の削減を達成した。（操業増影響を除くと、H28年度、H29年度の対策実施により、H30年度達成目標5.6%削減をオーバー達成）
第3年度	平成30年度は生産量が基準年（H27年度）に対して、約12%増加したことと、さらに排出量原単位を悪化させる品種構成となったために、排出量は基準年度に対して約9%増加した（継目無管工場の排出量原単位は約3%改善）。その結果、削減対策を実施するも、目標排出量は達成できなかったが、今後は更なる削減対策を実施し、目標を達成したい。

##### (2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

工場の削減目標を全社の目標としており、状況は上記のとおり。
-------------------------------

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の強化</li> <li>○エネルギー使用実績の把握</li> <li>○主要設備の保安全管理</li> <li>○ガス燃焼設備の原単位改善</li> <li>○精整ラインの効率的運用</li> <li>○蒸気の削減</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の強化：毎月の省エネフォローアップミーティングに加え個別省エネテーマ（GI活動）の活動を推進。</li> <li>○エネルギー使用実績の把握：毎月のエネルギー使用量の実績を各部署で共有し、活用する。</li> <li>○ガス燃焼設備の原単位改善：小径管工場加熱炉、熱処理炉で実施。</li> <li>○精整ラインの効率的運用：小径管工場精整の1ラインを休止し、精整ラインの電力削減した。</li> <li>○蒸気の削減：大径管工場の固定的使用の蒸気を使用期間を冬場に限定し、削減を図った。</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガス燃焼設備の原単位改善：大径管工場の加熱炉ガス原単位の改善（保熱、加熱時のヒートパターン改善）</li> <li>○主要設備の保安全管理：鋼管内面ショットブラスト機（3セット）のコンプレッサー圧調整による使用電力量の削減</li> <li>○精整ラインの効率的運用：大径管工場精整3ライン等の稼働集約による電力量削減</li> </ul>
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主要設備の保安全管理：小径管加熱炉、大径管加熱炉の大修理時の保守強化実施</li> <li>○ガス燃焼設備の原単位改善：小径管加熱炉、大径管加熱炉のヒートパターン等の改善による更なる原単位改善</li> <li>○精整ラインの効率的運用：大径管工場精整3ライン等の稼働集約による電力量削減継続</li> </ul>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	無
第1年度	無
第2年度	無
第3年度	無

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物の排出量の把握および削減に係わる対策</li> <li>○エコ運搬制度の荷主としての活動推進</li> <li>○川崎温暖化対策推進会議への参加</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物の排出量の把握および削減に係わる対策 機械設備からの油漏れ対策等による廃油、含油汚泥の削減等により、対前年度比40%の削減ができた。</li> <li>○エコ運搬制度の荷主としての活動推進 これまでの電子メールによる要請に代えて、エコドライブ条項を加え、改定した運搬契約書による要請をはじめた。</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物の排出量の把握および削減に係わる対策継続 昨年と同様、廃油、廃プラスチック、廃アルカリの排出量を削減することで、年間排出量を780トン（前年比8%減）と800トン未満を達成。</li> <li>○エコ運搬制度の荷主としての活動推進 これまでの電子メールによる要請に代えて、エコドライブ条項を加え、運搬契約書の改定による要請も継続。</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物の排出量の把握および削減に係わる対策継続 排出量の削減努力により、廃アルカリ、廃プラスチック、廃酸、木くずの合計では、対基準年（H27年度）に比較して、約200トン削減したが、圧延設備故障による油漏れにより廃油及び汚泥量が急増し、合計1000トンを下回ることができなかった。（油漏れ対策中）</li> <li>○エコ運搬制度の荷主としての活動推進 これまでの電子メールによる要請に代えて、エコドライブ条項を加え、運搬契約書の改定による要請も継続。</li> </ul>

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	42,216	t-CO <sub>2</sub>
(調)	42,216	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
継目無管工場	川崎市川崎区池上町2番1	2234	鋼管製造業	41,952 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	1
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--